

平成30年度 埼玉県新人大会総評

報告者：高体連技術委員 大宮南高校 大野恭平

1. 大会概要

期間：2019年2月9日～2月17日

会場：川口青木町公園陸上競技場他

結果：

優勝 昌平

準優勝 正智深谷

ベスト4 西武台・聖望学園

ベスト8 浦和南・成徳深谷・西武文理・本庄第一

大会方式：

昨年度選手権埼玉県予選ベスト8チームと各支部予選を勝ち上がってきた8チームの計16チームによるノックアウト方式

2. 技術・戦術的分析

(1) 大会全般

各チーム、新チームでの初の公式戦を迎えた。どのチームも冬休みに県外遠征や練習試合等行い強化を図ってきた。全国高校サッカー選手権大会が1月に終わりその余韻が残る中、今年度の埼玉県の展望を占う上では興味深い大会であった。

全15試合中、3点差以上差が開いた試合が6試合、スコアレスが1試合、延長戦が4試合、PK戦が2試合であった。比較的拮抗した試合が多かったように思う。しかしその中で、昌平高校の強さが際立った大会であった。スコアも4試合で25得点0失点と他を寄せ付けない強さがあった。

出場16チームのスタイルは様々であったが、まだこの時期ということもありどのチームも相手に対応したサッカーをするというよりも、自分たちのサッカーでどこまで戦えるかという点にフォーカスしていた。

今後、4月から始まるリーグ戦・関東大会予選に向けてどのようにこの大会を分析し、レベルアップしてくるか楽しみである。

(2) 守備

1対1の守備やルーズボールに対するインテンシティの高さはある程度みられた。また、シンプルなロングボールに対する対応力はどのチームも向上しているように感じた。しかし、連動したコンパクトな守備や相手にボールを握られた時のチャレンジ&カバーなどが1試合を通してできているチームは少なかったように思う。クオリティの高いチームと対戦する場合、守備のオーガナイズをしっかりと構築し、守備のスタート位置やボールの奪いどころをチームとして共有していきたい。

(3) 攻撃

複数の選手が連動して多彩な攻撃を仕掛けていたチームは少なかった。多くのチームがリスクを冒すことなく前線にボールを素早く供給して、セカンドボールを回収してからの攻撃が多かった。各チームがロングボールに対する対応力が上がってきているなかで、個々が相手を見て状況に応じた判断力やテクニックの発揮、チームとしてのボールの動かし方の確立など相手にボールを渡すことなくゴールに向かうことが意図的にできるようになると戦い方の幅が広がるのではないかと期待したい。

3. ベスト4チームの戦い

・昌平

個々の高い技術をベースに相手を見てプレーの判断ができるチーム。パスだけではなく、ドリブルで仕掛けることによって相手の守備ブロックを突破する。守備においても全体をコンパクトに連動してボールを奪う場面が多くみられた。

・正智深谷

攻守の切り替えが早く、守備意識の高いチームである。攻撃は前線の選手のドリブルやS Bのオーバーラップからのクロスなど多彩である。守備では高さのある選手や1対1に強い選手がいて安定感がある。

・西武台

素早く前線に供給して、セカンドボールを回収し二次攻撃を仕掛けたり、相手ゴール近くで得たスローインからロングスローでチャンスを作る。守備では前線から積極的にプレスを掛け、前線で奪う意識が高い。

・聖望学園

中盤の選手が前線にボールを供給し、サイドからのドリブル突破などでチャンスを作るチーム。守備ではゴール前に人数をかけて粘り強く守ることができる。テクニカルな選手が多いチームである。

4. 総括

今大会は、昌平高校の力が他を圧倒した形で幕を閉じた。この時期であれだけのクオリティの高さを見せることが出来るチームは全国を見てもそうは多くないであろう。今後、昌平高校がどのように進化していくのか注目である。他のチームにとっては今後関東大会やリーグ戦に向けて課題が見つかった有意義な大会であったと思う。新人戦で出た課題を日ごろのトレーニングやトレーニングマッチで改善し、個人としてもチームとしても成長した姿を見せてくれることを期待したい。